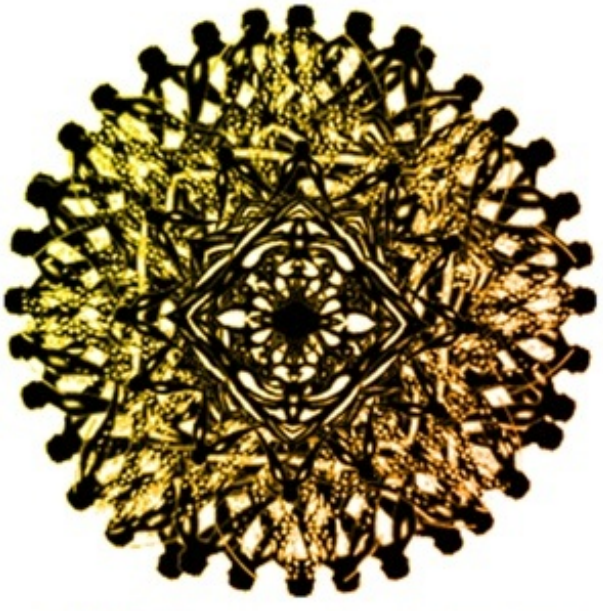
Adorare

アドラーレ01



片足靴屋/Sheagh sidhe　SAKIHA HAENO

Adorare

アドラーレ01

片足靴屋/Sheagh sidhe　SAKIHA HAENO

いつからか
私は海辺の家に住んでいた。
海と空だけを眺めていた日常に、
ある時、異物が交じった。
異物はこちらを見上げたまま、
しばらくその場を動かなかった。

私は宙で揺れることをやめなかった。
戸惑いと心細さにゆらめく金の目を
ここを満たしている深い紺碧と淡い蒼と
その境界で蕩ける青に馴染ませられず
彷徨うがままに泳がせたまま、
異物は私を仰いでいた。

異物は鹿の角をもっていた。
片方だけの角を、もっていた。
鹿とは対の角をもっているものだ。
欠落をひけらかしているというのに、
実に堂々と異物はそこに立っていた。
そのことに、なぜか、苛立ちを覚えた。

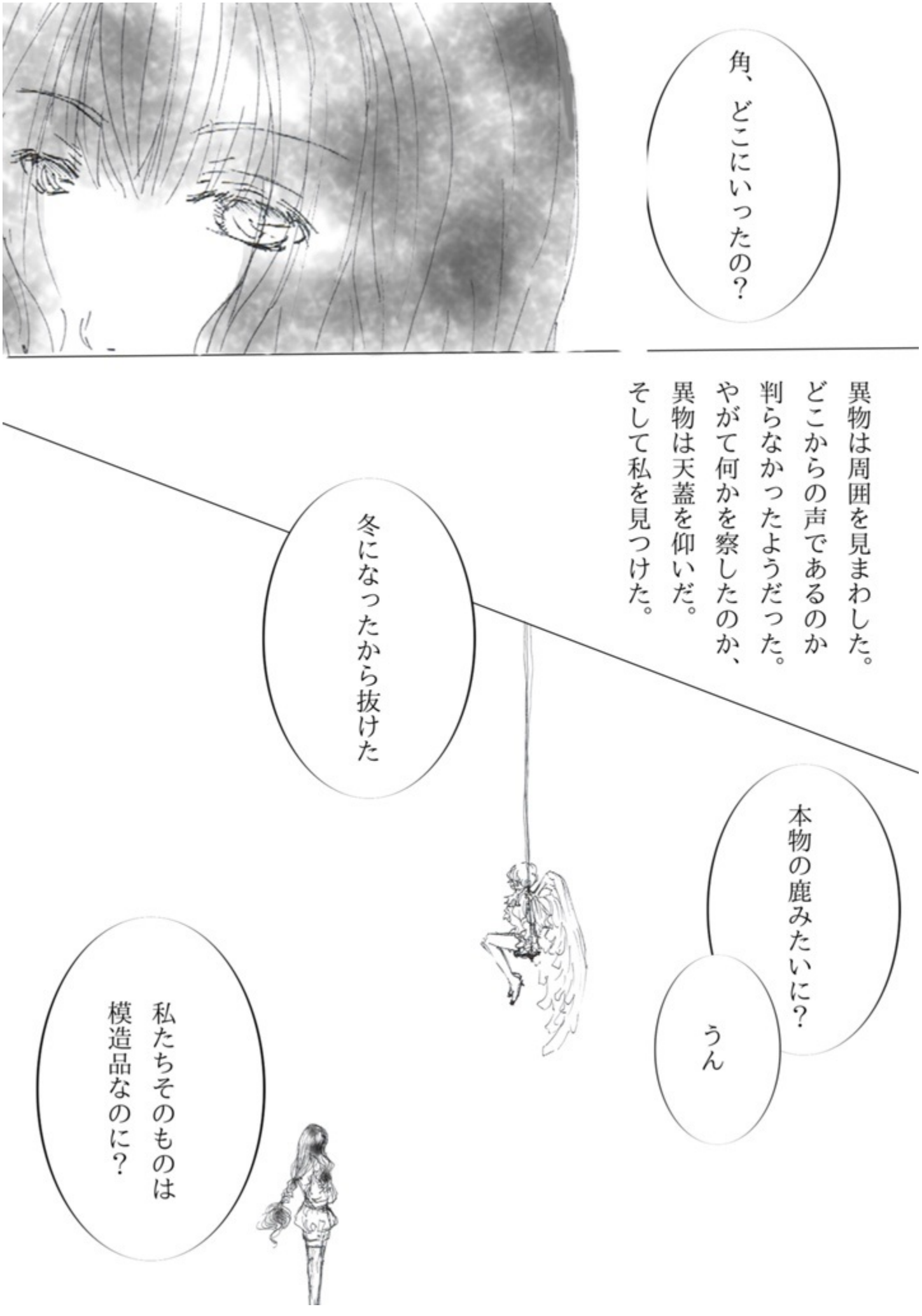
ほどなく異物はいなくなった。

陽の鋭さがやわらかさにかわる頃、
私はふたたび異物を見た。

反復とささやかな例外が重なりゆく
日常と同様、四季と呼ばれるものが
硝子の天蓋のまわりを上滑るように、
この家を訪れて去っていくもの達は
堆積物に鎖されて続く私にとっては
透きとおった流動でしかなかった。

それでも異物を目に留めたのは、
私の覚えている異物のかたちと、
目の前にしているそのかたちが
違っていたからだ。

わずかな逡巡の後、
私は異物に声を投げ落とした。


角、どこにいったの？
異物は周囲を見まわした。
どこからの声であるのか
判らなかったようだった。
やがて何かを察したのか、
異物は天蓋を仰いだ。
そして私を見つけた。
冬になったから抜けた
本物の鹿みたいに？
うん
私たちそのものは
模造品なのに？

ぼくらそのものは
ほんものだもの

それはひどく無邪気な見解におもえた。
ゆえに私はほのかな苛立ちを覚えたが、
憧憬のようなものもともに覚えていた。
胸中で渦巻く刺々しさとあまやかさの
混淆は私に困惑をもたらしたものの、
日常の水面に鮮やかな漣をたてるまで
のものにはならなかった。

この天井って
おっきな生き物の
肋骨のなかみたい

竜骨を逆さまに使ったらしいよ

そうしてると
まるで香炉だね

さぁ

高いとこ
好き？

冗談

そこからは何が見えるの？

青

覚えてない

いつからここに？

いつしか異物は私のもとを訪れるようになった。
他愛のないはなしをし、沈黙の裡にまどろんだ。
何がそんなに気に入ったのか解らなかったが、
私の邪魔をするわけでもなかったので、
好きなようにさせておいた。

ここはね
聖堂のなりそこない

なりそこない？

この家、いろいろと無計画に
無造作に積み上げられてて、
崩れないのが不思議なくらい
めちゃくちゃな造りらしいよ

たしかに
よく迷う

鍵がかかってる扉
いっぱいあるでしょ

あれ
家の中での遭難防止

!?

どうしてそんなことになってるんだろう
この家の造り主は私たちをつくったカミサマだからね仕方ない
失敗ばかりのそんなカミサマだ
カミサマが成功しかしなかったのなら私がここにいることもなかったのに

どうしたの？
大丈夫？

苦しいの？

くやしい

それまで無形で透明だったなにかが、
言葉という淵を得てかたちを呈した。
気づくとは退路を塞ぐということだ。
それは対象として捉えられるように
なってしまって、逃れられないから、
私はそれを呑みくだすしかなかった。

その情動はどこからくるのか。
胸の裡を見つめた末の呆然は、
ただ、困惑をもたらすだけで、
うまく情動を掬えないことに
もがいて足掻いて諦念に沈み、
夢見るように、皮肉るように、
溺れることしかできなかった。

ただのばかだ

両の羽根をもってうまれていたのなら、
このような情動とは無縁であったのか。

だいきらいだ

完璧を求めるあまり狂ったいきものに。
完璧とはどのようなものかも判らずに
貶め唾棄だけはしてくれるいきものに。
それを解っていてすらまなざしを求め、
その脚に縋りつき優しい手で撫でられ、
私への穏やかな声を望んでしまうのは。

時の流れから断絶した家で
断片を連ねながら在り続け、
とらえどころのない憧憬と
あらがえない崇敬をもって
むさぼるように蒼穹を仰ぐ。
これは造られて生かされる
完璧ではない模造品たちの、
ただそれだけのおはなし。

あとがき

なんとはなしにカタハネさんのおはなしをはじめてみました。
羽根とはどうやってかけばいいんだ…。
致命的すぎました。
静止に佇む海辺の家で、
居住者たちが織りなすだけの
日々のおはなしですが、
のんびり増えるかと思います。
基本的には名無し＆性別不詳の
方向でいこうと企んでますので、
読んでくださった方のおこのみで
あじつけしていただければと
存じます。可能性は無限大。

2014/11/26　南風野さきは

アドラーレ　01

著(描)：南風野さきは

発行　：片足靴屋/Sheagh sidhe

URL：http://id12.fm-p.jp/20/LIR/
Twitter：@SAKIHA_HAENO

※著作権は著者に帰属いたします。

※この物語はフィクションであり、実在の人物・団体・事件等には一切関係ありません。

アドラーレ 01

http://p.booklog.jp/book/92540

著者：片足靴屋/Sheagh sidhe
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/leithbhrogan/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/92540

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/92540

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ